

みさと公園の除染

(埼玉県資料から)

場所	除染前(6月27日)	除染後(10月30日)
こどもの砦	0.24~0.28	0.08~0.15
屋根付き広場	0.23~0.30	0.04~0.14

みさと公園除染完了 放射線量は激減 水元公園は手つかず

放射線量は半分から 六分の一にも

水元公園と小合溜をはさんで対岸にある埼玉県三郷市のみさと公園。その除染工事が完了し結果が公表されました。

埼玉県によると、除染した場所は子どもたちの利用が多い、通称「こどもの砦」東側と「屋根付き広場」周辺の芝地と草地です。

図表のように、除染した場所では放射線量が半分から六分の一ほどに下がりました。

三郷市は、国の定める「汚染状況重点調査地域」の指

定を受け、六月に「三郷市除染計画」を作成しました。今回の除染はこの計画に

ある埼玉県が実施したものと、工事の約一・三ヘクタールの区域の表土を三センチ

水元公園の放置は異常

「こどもと区民を放射能から守る葛飾連絡会」の有志は、水元公園の中央広場周辺でも十一月十一日、測定をおこないました。

測定した十五カ所のうち九カ所で、環境省の基準(地上五〇センチメートルで毎時〇・二三マイクロシーベルト)を超えていました。会のメンバーは「セシウム一三四の半減期が二年なので、放射線量は来年の春くらいには原発事故直後の六〇七割程度になるといっても、いまの半分になるのは何年か先。除染すればすぐに下げられることはみさと公園の例でも明らか」と指摘します。

埼玉県がこの工事につ

メートル削って、新しい土で埋め戻し、約三か月で終わりました。

た費用は千八百万円。都政を途中で投げ出した石原前都知事の退職金(一年半分で千七百万円)や、自民党、民主党都議の海外視察費用(二〇人で三千七十万円・二〇一〇年)に比べると、都の姿勢が問われます。